

平成22年第3回(6月)瀬戸内市議会定例会

教育委員会行政報告

市長の一般行政報告に続いて、教育委員会から5件の教育行政報告をいたしますが、その前に、私が教育長として教育行政を進めるに当たっての基本姿勢を述べさせていただきます。

まずは、昨年10月の臨時市議会において教育委員の任命に同意をいただきながら、教育長就任は4月1日ということで、長期間にわたり議会及び市民の皆様にご迷惑をおかけいたしましたことを深謝いたします。

さて、現在我が国においては、雇用・社会経済の悪化や少子高齢化、高度情報化、価値観の多様化など教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、個人が目的意識をもち、前向きに目標に取り組んでいくことが年々難しくなりつつあります。また、こうした中で、子どもをめぐる状況には、学力の向上、規範意識や社会性のかん養、コミュニケーション能力の向上など様々な課題が山積しています。

国ではご承知のように、このような課題の解決をめざして10年ぶりとなる学習指導要領の改訂が行われ、小学校では23年度から、中学校では24年度から新学習指導要領が完全実施されます。

このような状況の中で、私は、学校教育の面では、「一人ひとりの子ども

の成長をめざして」を基本理念とします。具体目標としては、子どもたちが「分かった」「できた」という達成感を感じるような『分かる授業』を実践すること、授業中の学習規律の定着を図ること、4年生から中学3年生までの市独自の学力・学習状況調査等を実施することにより「学力の向上」に取り組んでいきたいと考えております。また、コミュニケーションの第一歩でもあり、人として生きていく上で基本となる「あいさつ」の習慣化、さらには「早寝、早起き 朝ご飯」による生活リズムの確立や健康・体力の向上に取り組んでいきたいと考えております。

なお、当然のことながら、子どもたちが安全・安心の学校生活を送ることができるということは緊急の課題であり、また、緊急時の市民の方の避難場所にもなることから、耐震化計画に沿って耐震補強工事を実施し、平成24年度末までにすべての学校施設の耐震化を完了させる計画でございます。

また、社会教育の面では、「一人ひとりが輝くふるさとをめざして」を基本理念に、市民の方が「つどい」、「まなび」、「いきいき」とふれあうことができる生涯学習社会の実現に取り組んでいきたいと考えております。特に、幼児から高齢者までの多様なニーズに応えるため、市民の学習拠点である公民館、図書室、博物館、美術館などで魅力ある事業の展開に努めます。また、国民文化祭おかやま2010「備前おさふね名刀フェスティバル」の開催や瀬戸内市立美術館の開館に向け体制の整備を図っていきたいと考えております。

なお、諸施策の推進にあたっては、教育委員会が率先して情報公開に努め、関係諸機関や教育関係団体との連携のもと、一人ひとりが生涯にわたって学び続けることをとおして、新しい知識や能力を獲得し、自ら課題を見つけ、自ら学び続ける力や人や自然を思いやることのできるやさしさとぬくもりのある人づくりをめざしていきたいと考えております。

以上、私の所信を申し上げ、本題に入らせていただきます。

平成 21 年度末 公立小中学校教職員人事異動について

21 年度末の教職員異動数は、20 年度末とほぼ同数でした。転出者の内訳は校長 4 名、教頭 5 名、教諭 34 名、養護教諭 1 名、事務職員 3 名の合計 47 名でした。異動先は、市内異動よりも市外への異動が多く平成 20 年度と同じ状況でした。

傾向としては、岡山市との交流、県立特別支援学校との交流を推進できたこと、行政や国立学校への転出者が増加したことの 2 点があります。また、本市への勤務及び同一校における勤務が長期にわたる教職員の異動については、計画的に異動を進めることができましたが、十分ではありません。

新たな職については「主幹教諭」「指導教諭」ともに小学校・中学校へ各 1 名が増員され、「主幹教諭」は小学校に 1 名、中学校に 2 名。「指導教諭」は小学校に 2 名、中学校に 1 名となりました。また、「栄養教諭」も 1 名増員しております。

平成22年度末に向けての課題としては、昨年度末同様に教職員の男女比及び年齢バランスの改善を図ること、7年以上の長期勤務者の解消があります。また、県と連携して、教諭の増員を図っていきたいと考えております。

学力・学習状況調査について

今年度の「全国学力・学習状況調査」が、悉皆調査ではなく抽出調査として実施されたことはご存じのとおりであります。本市では「一人ひとりの子どもの力を伸ばす教育」実現のため、これを積極的に利用して児童生徒の学力向上を図ることとしました。概要としては、国の調査で抽出されなかった学校の小学校6年生と中学校3年生も、国から調査用紙の提供を受けて抽出校と同様に実施しました。これを「希望利用」と言います。この希望利用の採点・集計・分析につきましては、教職員の負担増とならないことと、抽出校と同じ程度のフィードバックを得るために、教育関係の業者に委託しております。また、小学校4年生・5年生及び中学校1年生・2年生を対象に、市独自の学力調査と学習意識調査を実施しました。市独自の調査につきましては、国語・算数（数学）の教科に関するテストと、児童生徒の学習と生活に対する意識・態度に関する調査を行いました。調査問題の作成や採点・集計・分析は、希望利用と同じ業者に委託しております。

これらの調査結果は、1学期中には各学校・個人にお伝えする予定です。ただし、小学校6年生と中学校3年生については、国の調査で抽出された学

校の結果が届くのが8月末になる予定ですので、抽出校と希望利用の結果を合わせて市全体の傾向を見ることは9月末になる予定です。

結果のフィードバックですが、一人ひとりの児童生徒へは、自分の学力の傾向や今後の努力すべき方向などを示す資料を渡します。各学校へは、学年ごと、学校ごとの学力や学習・生活状況の傾向・課題などを示す資料を渡します。これらのデータを元に、各学校では個人指導を具体的に行うとともに、学年・学校全体での学力向上に向けた計画を作成する予定です。また、各中学校ブロックで情報を共有化して、各ブロックでの学力向上に活かす予定です。

市全体の傾向や課題等につきましては、現在と同じく市のホームページ等を利用して公表したいと考えています。

牛窓町公民館図書室オープンについて

平成22年4月1日に牛窓町公民館図書室がオープンしました。「海が見える図書室」として、絶好の環境のなか、この1か月間皆様に利用していただいております。

1か月間の本の貸出冊数は、個人が3,033冊、団体が125冊でございます。また、貸出利用人数は、個人で565人、団体で19団体でございます。

そして、予約が221件、返却が2,004冊、38人の新規登録をいた

だいております。

また、昨年と同時期と比較しますと、貸出冊数が約1.3倍、貸出利用人数が約1.2倍の利用をいただいております。

国民文化祭について

平成22年10月30日(土)・31日(日)の2日間、備前おさふね刀剣の里・ゆめトピア長船・長船町福岡市場小路一帯で開催する国民文化祭「備前おさふね名刀フェスティバル」では、「キラリ瀬戸内 来て! 見て! ふれて! 千年の技」のサブタイトルどおり、刀剣の魅力満載の文化の祭典を目指し、企画委員会で実施内容を検討し、市文化協会の共催を得て準備を進めております。国宝や重要文化財の日本刀や現代刀匠のお守り刀の展示のほか、古式鍛錬や職方の作業も公開いたします。また、見るだけでなく体験メニューも充実させ、大勢の皆さんにお越しいただけるよう、特別ゲストに岡山県出身の俳優・八名信夫氏を迎え「悪役一筋50年 ~ふるさと、日本刀に学んだこと~」と題した記念講演会も開催いたします。また、国民文化祭を一過性のイベントで終わらせるのではなく、これを契機に市民の皆さんに刀剣について感心をもってもらえるよう、行政だけで進めるのではなく、様々な関係団体の皆さんに協力を呼び掛け、市民の皆さんに主体的に関わっていただけるよう努めております。福岡の大手の開催や、郷土料理や郷土の食材を使ったもてなし、菊づくりや花づくりボランティアの皆様方が花で会

場を彩ってくださるなど、市民参加文化事業も展開されます。この機に博物館ボランティアを養成しようと、養成講座の受講生を募集したところ、市内から13名の応募があり、5月9日に第1回の同講座を開催しました。現在は、その他国民文化祭ボランティアも募集中です。

PRについては、懸垂幕を本庁・牛窓支所・長船町土師の四村先橋西に設置し、のぼりを備前長船刀剣博物館に設置しております。広報紙やホームページを活用したり、チラシを作成して行政連絡会議やその他の会議、おかやま元気まつり、福岡の大手、駅等で配布したり、市の施設に設置するなどして周知に努めております。邑久高等学校と長船中学校の美術部の皆さんもPR看板を制作してくれております。

地元行幸小学校では、本年度6年生が総合的な学習の時間に刀剣について学び、表現活動を実施することとなっております。

今後は、ポスターやテレビCMを作成して市内外へ周知し、各関係団体と連携を密にし、一人でも多くの皆さんに瀬戸内市の良さを再認識していただく機会となるよう努めてまいります。

瀬戸内市立美術館の開館に向けて

瀬戸内市立美術館については、現在展示室・収蔵庫の温湿度調整等による環境整備、展示事業計画、広報計画を開館に向けて進めております。

職員体制については、館長及び学芸員補兼事務員を公募し館長候補及び学

芸員補兼事務員が決定しております。館長候補については、長年、民間で美術関係の勤務経歴を有しており、今後の運営に関して民間で美術に取り組んだ経験を活かし、地域文化の向上に取り組んでいただきます。

また、開館日については、瀬戸内国際芸術祭や国民文化祭の開催時期を考慮して10月1日（金）を考えております。今後は、ポスター・チラシ・パンフレット等広報活動に努めたいと考えております。

以上をもって、教育委員会の行政報告とさせていただきます。

平成22年6月2日

瀬戸内市教育委員会

教育長 山崎 宗則